

「30年後からバックキャストする「持続可能な社会」

1 校種・教科・科目（分野） 高等学校・公民科・「政治・経済」（「現代社会」）

2 単元名 大項目 B グローバル化する国際社会の諸課題 「30年後の北海道」

3 学習指導要領上の位置付け

「政治・経済」の大項目 B として、現実社会の諸課題の中から、身近な地域（北海道）の課題を選択し、豊かな自然の恵みを活かしながら、「30年後の北海道」の活性化と持続可能な社会づくりを目指して、その課題解決を政治と経済を関連させて多面的・多角的に考察、構想し、情報科とも連携し、情報技術を活用して表現させる。

4 カリキュラムマップとの関連性

マップの「政治・高等学校」の「人間と環境の調和」に該当する。これまでの「学び」（高校の公民科に限定するものではない）を通して習得した知識・技能を活用し、主体的な問題意識を発揮して課題を選択し、人間と環境が調和した「持続可能な社会」の形成に向けて、具体的で夢のある課題解決の方策を構想し、ICT機器を活用しながらプレゼンテーションする取組を通して、「公正な社会的判断力」を育成する。

5 単元目標

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 学びに向かう力・人間性 |
|---|---|--|
| 政治と経済を関連させて考察、構想する中で、目標とする「30年後の未来像」を構想 既習の「知識・技能」を活用し、自分の問題意識を明らかにして優先的に解決すべきだと考える「課題」を一つ選択 | 「30年後の未来像」を構想した上で、その実現に向けた具体的な取組や課題解決の方策を考察、構想し、ICTを活用して提案 プレゼンテーションを視聴し、発表者が構想したことについて、その妥当性や効果、実現可能性などを公正に判断して「コメント」 | 選択した「課題」の概要、その解決方法、具体的な取組や方策について、「人間と環境の調和」に配慮し「持続可能な未来像」を目指したものを提案 「課題」解決の方策について提案するプレゼンテーションに取り組む中で自分の考えを自己更新する |

6 単元の特色（教材観）

- (1) 「身近な教材」として、「北海道の未来像」を取り上げる。導入部分で生徒に対して「未来につながるように、北海道がかかえる課題を解決し、北海道を活性化させて、その可能性を広げていく」という取組の目標を明確に示し、「構想シート」の作成と学習活動全般との関連付け（学習の動機付け）の理解の共有化を図る。
- (2) 既習の幅広い学習成果を活かし、「人間と環境の調和」をはかりながら「持続可能な社会」を目指す取組として、その妥当性や効果、実現可能性などの観点も踏まえて提案することを求め、プレゼンテーションさせる。

- (3) 「〇〇〇な北海道をめざして」という形で「30年後の未来像」を構想し、現状から解決しておくべき課題や問題点を洗い出し、30年後の社会を担う「当事者」として、最優先な課題を選択し、その解決に向けた具体的な方策・取組を提言させる。
- (4) 「構想シート」の作成に向けて、事業の立ち上げや様々な可能性を具現化するための視点や取組について、導入段階の教材（メッセージ映像等）を工夫し、生徒の気づきを促す。HAPの蒲生社長には単元のねらい等について十分な説明を行い、直接生徒に語りかける形で、3分間余の「ビデオメッセージ」をいただいた。
- (5) 同一のテーマ（「〇〇〇な北海道をめざして」）であっても、生徒一人一人異なる問題意識から「課題」を選択し、その解決を図る「構想」についてのプレゼンテーションとなり、発表の内容は多岐にわたるものであった。

補足説明

1) 指導計画に基づく実際の「授業」は、「現代社会」（1年次8クラス）で先行実施。

- ・「現実社会の諸課題」を通して、「人間と環境の調和」を多面的・多角的に考察、構想する教材として、「身近な地域」としての北海道を取り上げ、30年後の「よりよい社会」の実現に向けて、30年先の未来から現在に向けて「バックキャスティング」する形で、現在の諸課題に対する夢のある課題解決の方策を各自構想させた。
- ・豊かな自然に恵まれた北海道も、様々な分野においてグローバル化の影響を受けている。今回のこの実践研究で実施した「3分間プレゼンテーション」の発表には、身近な北海道について、国の内外とのつながりに目を向け、さらには多様な領域にわたる課題抽出とその解決に向けた方策の構想、提案等があった。
- ・この実践の前段として、SDGsを取り上げた「1分間スピーチ」を全員に課し、生徒間の「相互評価」も実施していた成果の一つとして、生徒一人ひとりの問題意識も幅広く、地球的な視野から「人間と環境の調和」を考察する生徒が多数いた。
- ・「〇〇〇な北海道をめざして」という形で「30年後の未来像」を構想し、現状から解決しておくべき課題や問題点を洗い出し、最優先な課題を選択し、その解決に向けた具体的な方策・取組を提言させる上で、あえて、30年という時の経過を踏まえて考察させることによって、視野の広がりや自由な発想を期待した。また、30年後には、自分たちが社会の中核として活躍しているはずであり、30年後の社会を「よりよい社会」にすることは、決して他人事ではなく、自分事として考えるべき課題であり、主体的な「当事者」意識を喚起することも期待した。
- ・授業の工夫として、情報科との教科横断の指導を企画し、ICT機器を活用して各自の「よりよい社会」の未来予測とその実現に向けた現在の課題解決の方策等についてプレゼンテーション（「Google スライド」を用いて発表）させた。
- ・プレゼンテーションについて、パフォーマンス評価の一環として、「よりよい社会」の構想内容と解決すべき課題の抽出、その課題解決の方策、さらにそれらの発表に関して、生徒間の「相互評価」を実施した。
- ・1学年320名の取組として、実施の期間（10～12月）、生徒間で様々な刺激と成果の共有があり、事後の生徒の感想から、他の生徒の構想や解決方法の工夫などについての高い評価と好感が読み取れ、学習効果も高かったものと考えている。

2) 生徒に「実施要領」として提示した「目的・ねらい」

〈「実施要領」からの引用〉

「1分間スピーチ」の取組をさらに前に進め、「課題」選択から「テーマ」の設定、その「課題」解決に向けた目標（達成状況）設定、既習事項も活用しながら、資料等の分析に基づく具体的な方策・取組の構想、そして、自らの考えを、ICT機器を活用しながらプレゼンテーション（自らの意見を表明し伝達する総合的なパフォーマンス）し、他者に向かって発表する。さらに、クラスメイトのプレゼンテーションをしっかりと視聴して、発表者が構想したことについて、その妥当性や効果、実現可能性などを公正に判断して「コメント」する力を身に付ける。

以上の「目的・ねらい」を授業のはじめに生徒に説明し、この取組の目的・ねらいとともに、この取組によって身につける資質・能力、目標となる「成果」についての理解も促した。この授業実践のような「パフォーマンス課題」においては、取組のはじめに、その取組の目的やねらい、さらには「ゴール」となる到達点等を明確にすることが重要であると考えている。また、その中で「おおむね満足」となる評価規準も詳しく示し、生徒の取組の方向性と完成度を導き出すことも、同様に重要であると考えている。

3) 「身近な教材」としての北海道

「身近な教材」についての捉え方として、次の「3+1」の考え方をあげておきたい。まず「空間的に身近」である「地域教材」、「時間的に身近」である「時事教材」、「感覚的に身近」である「興味教材」がある。授業実施校は札幌市立の進学校として、札幌市内にあり、北海道を「身近な教材」として取り上げることに適当であると考えられる。

また、5～9月に毎時間の授業の冒頭10分間に継続的に取り組んだ「1分間スピーチ」（1年次「現代社会」8クラス、320名全員で実施）では、SDGsの17の目標のうちから、各自2つ以上の目標を選択し、それらの目標を組合せながら、今日的な課題とその解決策について発表している。この取組を通して、対象を広い視野で捉える資質・能力が身につけており、北海道の課題についても、国の内外、またSDGsにかかわるような広い視野からの課題抽出や設定がみられた。30年後の北海道のよりよい有り様を自由に予想しながら、その実現に向けての課題解決策を構想することに、楽しみながら取り組めたと考えられる。

「身近な教材」についての「+1」は、「取り組むことが身近」である「同調教材」を意図している。生徒が「考え、取り組む過程」において、その教材が学習活動に取り組む生徒と密接にかかわり、同調していることが、探究的な学びの教材として、適当であると考えている。これらの点から、北海道を「身近な教材」として選択した。

7 単元計画

(1)単元の構成

（1時間目）→北海道の7空港を経営・運営している北海道エアポート（HAP）の蒲生社長から、この取組に向けて生徒に呼びかけるメッセージ映像（「いま我々は神様からの贈り物で生活している」「知恵を出し合い、北海道の豊かな自然を活かしながら50年後100年後までも続く営みを創り出すこと大切」等の言葉）を視聴させ、課題探究学習の要領等を解説。「構想シート」作成と情報科での授業の取組を説明。

(2～4時間目)→情報科の指導(「情報の科学」3時間配当)を受けて作成した「Google スライド」を投影しながら、1人3分間のプレゼンテーションを行う。

(2)指導と評価の計画

(1時間目)→「構想シート」(ワークシート)作成に取り組み、学習課題を理解。

(2～4時間目)→「コメント用紙」を用いて生徒間での「相互評価」を実施。

補足説明

1) 「3分間プレゼンテーション」としての取組の流れ

- ①「30年後の北海道」を予測し、「現実社会の諸課題」の中から、優先的に解決すべきだと自分が考える「課題」をひとつ(複数の「課題」を結び付けても可とする)選択する。
- ②自分の問題意識を明らかにし、その「課題」を選んだ理由とその「課題」の概要を示す。
→現状から30年後を予測したときに、選択した「課題」がどのようなもので、どの分野や対象にかかわっての「課題」なのか、他者に伝わるように簡潔に示す。
- ③論理的な根拠を明らかにするために、資料等に基づく現状の分析も示しながら、その「課題」の解決が重要であるという根拠を示し、その「課題」に取り組もうと考える動機や背景、裏付けなどについて、簡潔にまとめる。
→今回の取組では「当事者意識」の明示を求める。その意味から、選んだ「課題」について、自分自身との関わり(興味関心やこれまでの経験など)について、触れる。
- ④テーマ設定として、「30年後の未来像 ○○○な北海道をめざして」という形で、「○○○」に入る言葉を設定する。プレゼンテーションの内容を、端的に表現し、伝わる言葉(テーマ、タイトル)を工夫する。
- ⑤①～④の取組をまとめたワークシートを公民科「現代社会」の授業において作成し、提出。提出期日は…の期間。
→別紙のA4版1枚のワークシートに簡潔にまとめる。

※資料①のワークシート

- ⑥発表用のスライド(パワーポイント等のスライド)を、情報科「情報の科学」の時間に作成。作成期間は…の期間 作成要領等は、情報科の先生の指示に従う。
→次のような構成内容を基本とする3枚以上のスライドを作成する。
 - ・導入 「テーマ」、選択した「課題」の概要、選択の理由、取組の動機や背景、裏付けなど
 - ・展開 「課題」についてその解決の重要性・必要性、課題解決に向けた「方策」の具体など
 - ・まとめ 「方策」のまとめ、課題解決に向けた理解と協力の呼びかけ、関連する提言など

※このスライド作成を「情報」で指導。TED等のプレゼンの技法なども含めて指導していただき、当初予定で2時間配当のところ3時間の授業時間を割いて、質の高いスライドと発表原稿を、1年生全員が作成し提出した。

- ⑦発表用データの提出。提出締め切りは…。 提出方法については別途指示する。
※提出方法は Google フォームにアップ。当初 3 枚程度のスライドを想定していたが 7～8 枚のアニメーション入りの見事なスライドが完成。
- ⑧発表準備。発表用の台本(400～600 字×2 枚程度)を各自準備。この台本については発表者の手元のみ用意。
「1 分間スピーチ」の成果を各自発揮し、単なる原稿の棒読みではなく、ICT の映像も交えながら、「伝える」ということを意識したパフォーマンスを工夫する。
※具体的なデータ等を盛り込み、スライドと合致した発表原稿を作成。
- ⑨授業の冒頭に、1 時間に 2 人ずつプレゼンテーション。発表後、3 分間限定の質疑応答と「コメント」用紙への記入。毎時間 10 分以内という形で、時間を区切って、年度末まで継続実施していく。
※当初の計画として、毎時間の継続実施を予定していたが、取組の反響が大きく、発表用の時間を 3 時間確保し、8 クラス全体の発表期間を集中させた。結果として、生徒間の刺激、発表成果の共有など、大きな効果が得られたと考える。
- ⑩授業時間内に、発表を視聴しての「コメント」を、用紙に記入し、発表者に直接手渡す。プレゼンテーションの取組に対する生徒間の「相互評価」として、生徒相互の励ましとする。また別途、その時間内の発表についての気づきや特によかった発表についての「コメント」を A5 の用紙に記入して提出させた。

2) 生徒間の「相互評価」の実際

発表時には、クラス生徒全員に発表者分の「コメント用紙」(A5 版)を配布し、3 分間の発表後、次の発表者のデータ準備も兼ねた 1.5 分間のインターバルのうちに記入させ、生徒間の「相互評価」(「コメント用紙」は発表者に直接手渡し)を実施。授業の最後に、別途、本時の発表を聞いての「気づき」等を書き留める「振り返りシート」(A5 版)も記入させ、これは授業者への提出としている。

※発表者への「コメント」→発表者に直接手渡す

- ・「テーマ」「課題」について：「テーマ」と発表内容の関連性、「課題」の選択、設定理由や取組の動機について
- ・プレゼンテーションの組み立て（構成）について：スライドの出来や発表時の使い方、説明の手順などについて
- ・プレゼンテーション全体を通しての感想：発表者への「激励」も込めて、発表の内容全般についての感想

※全体を通しての「コメント」(この取組の最後にアンケート形式で実施)→授業者に提出

- ・今日、印象に残った「テーマ」や「課題」について
- ・今日、印象に残ったプレゼンテーションの組み立て（構成）について
- ・今日のプレゼンテーションを通しての感想:気づいたこと、感じたこと、考えたことなど

※資料②の「3 分間プレゼンテーションを視聴して」(A5 版の用紙)と「発表用スライドの構想・レイアウト」

(3)指導過程

| 段階 | 学習活動（学習内容含） | 学習形態 | 指導上の留意点 | 評価規準（評価方法） |
|--------|--|-------------|-----------------------|---|
| 1 時間目 | メッセージ視聴 「未来につながり、北海道を活性化させて、その可能性を広げていく」という取組目標の理解 | 一斉 | 学習課題の共通理解を図る | 「構想シート」の作成を通して、単元の取組目標の理解、既習事項の活用、課題解決の具体化を評価 発表について、妥当性や効果、実現可能性を公正に判断し「コメント」 |
| 2 時間目～ | 「構想シート」作成 | 個別 | 未来を構想し課題選択、課題解決の取組を構想 | |
| 4 時間目 | プレゼンテーション 「相互評価」 | 個別 生徒間相互 | ICTを活用し提案 「相互評価」 | |

補足説明

授業構成

- ①「現代社会」の授業： 「30年後の北海道の問題・課題」について自分で調べて、ワークシートに「問題・課題」「課題を選んだ理由」「解決への方策」をまとめる
- ②「情報の科学」の授業： ・Google スライドの使い方 ・プレゼンテーションの指導
 - ・現代社会の課題について、3分間でプレゼンテーションを行うためのスライド
 - ・読み原稿の作成を実施 フォームに保存



写真は情報の授業の様子。

この取組は1学年のすべてのクラスで実施している。

(3・7組は先行

試行として一人一台配布されている Chromebook / 他のクラスは PC で実施)

- ③「現代社会」の授業： Google フォームに保存されたスライドデータをプロジェクター接続の Chromebook で取り出し、黒板添付の簡易スクリーンに投影。合わせて、Google フォームに保存された読み原稿データを生徒が手持ちする iPad に読み出し、教卓の位置（黒板のスクリーン以外の半分の位置。実施の途中から、スクリーンを見やすくするため、教室の前方右端・前方の入口前に変更。）に立ってプレゼンテーション。データについては、発表前の書き換えも各自自由に出来るように、Google フォームに保存するデータについて、内容・完成状況等確認後「返却」して「未提出」の状態に留め、発表後に「提出」の処理をさせ、発表の有無を簡便に確認できるようにデータリストの仕分けを行っている。

8 カリキュラム・マネジメント

ICT 機器の活用と教科横断の取組として、情報科と連携し、プレゼンテーションに向けた「Google スライド」の作成を、TED 等のプレゼンの技法なども含めて指導していただく（「情報の科学」3 時間配当）。教科内で授業進度を調整し、1 学年 8 クラスの発表時間を年間指導計画の中に各 3 時間確保（2 単位で週 2 時間の授業時間）。ほぼ同時期に共通した取組を行い、学年全体で生徒間の意識が共有され、使用機器のスムーズな運用（発表時生徒は手元原稿用と投影用の 2 台の PC を使用）と相互に刺激し合う雰囲気醸成を図る。（R3 年 10 月～12 月、1 年「現代社会」320 名で実施）

補足説明

1) 教科横断の取組と校内体制

ICT 機器の活用にあたっては、発表用の「Google スライド」の作成指導、発表原稿の作成、並びにそのデータ提出、教室内での発表環境の整備・サポート等、情報科と全面的に協力・連携し、教科横断授業として取り組んでいる。なお、ICT 関連の教育環境の整備については、全校的に工夫改善が進められており、来年度（R4 年度）からの「一人一台端末の導入」に向けて、全教員を対象とする「Chromebook 研修会」が複数回開催されている。

2) 「授業づくり」のポイント 「ICT 機器を活用した課題探究学習の授業」

① 「Google スライド」を活用した「3 分間プレゼンテーション」

- ・公民科と情報科の教科横断授業
- ・「発表」と「相互評価」を組み合わせたパフォーマンス課題
- ・「30 年後の北海道」を予測、優先的に解決すべき「課題」を生徒が各自選択し設定
- ・導入に北海道エアポート蒲生社長から生徒へのメッセージ

② 前段として、5～9 月に SDGs を取り上げた「1 分間スピーチ」

①の授業の前提として実施した「パフォーマンス課題」（ICT 活用以外の実践）

③ 更に発展的な取組として 12 月～年度末に「30 年後の北海道を活性化する事業企画」（経済教育の視点重視）をグループごとに企画立案、報告書にまとめてコンペ形式で発表し、「投票」の形で生徒の「相互評価」をさせる課題探究学習も実施済み。

9 本時の授業展開

導入時（1 時間目）の工夫

- ① 生徒が成人し、社会の中核として活躍する 30 年後の「より良い社会」を、自分事として構想させる。
- ② その社会の実現に向けて、現状の諸課題の中から優先順位の高い課題を選択させ、「現状の良さを維持する」という発想も加味しながら、「より良い社会」の実現に向けた取り組み（課題解決）を、根拠に基づき論理的に考察し、構想させる。
- ③ 導入時に、北海道の航空・運輸・観光業をリードする、北海道エアポートの蒲生社長からビデオメッセージをいただき、北海道の特性・魅力への理解を共有した。（「いま北海道の我々は、神様からの贈り物で生活」「知恵を出し合い、自然を活かし、未来に続く営みを」「創意工夫し、お金を回していく活動を創り出す」など）

指導過程

| 段階 | 学習活動（学習内容含） | 学習形態 | 指導上の留意点 | 評価規準（評価方法） |
|--------|---|---------------------|---|--|
| 導入 15分 | 「実施要領」確認 ・目的とねらい ・取組方法 ・成果の到達点 等 | 一斉 | 学習課題の 共通理解を 図る | 課題探究学習 の目的・ねらい の理解 |
| 展開 5分 | メッセージ視聴 「未来につながり、 北海道を活性化さ せて、その可能性を 広げていく」という 取組目標の理解 | 一斉 3分間のビデオ 視聴 | ICTを活用し て提案する こと理解 未来を構想 し課題選択、 課題解決の 取組を構想 | 「北海道」への 理解の深化と 未来予測の意 識獲得 |
| 25分 | 「構想シート」作成 提出は後日 | 個別 | 維持する という視点も | 「構想シート」 の作成を通し て、単元の取組 目標の理解、既 習事項の活用、 |
| まとめ 5分 | 情報科授業の課題 等を指示 | 一斉 | 含め自由に 構想させる | 課題解決の具 体化を評価 |

10 生徒の学習成果とその評価

「資質・能力マップ」との関連から、次のような成果が得られたと考える。

1) 「公正な社会的判断力」に関連して

- ・「より良い社会」の捉え方を各自で掘り下げ、現状の諸課題から優先順位の高いものを選択し、その課題解決を構想する過程で育成することができた。
- ・導入の蒲生社長のメッセージにより、厳しい状況の中、（コロナ禍のインバウンド激減など）北海道の自然を活かした未来に続く営みを、知恵を絞って、力を合わせて創りあげることの必要性を認識（共通理解）し、学習活動に取り組むことができた。



2) 「政治参加への意識」に関連して

- ・「プレゼンテーション」への主体的な取組過程で育成することができた。
- ・他者の発表を視聴し、「相互評価」する中で視野を広げ、理解を深めることができた。

11 「18歳市民力」育成に向けての提案

「考えるという過程=教材を通じた学習活動」を指導計画の柱とし、学習者にとって取り組むことが身近となる「身近な教材」を用い、「〇〇の立場として考えてみる」など、時間的、空間的に適切な場面設定をしながら、課題探究学習を展開していくことにより、高等学校段階での「18歳市民力」育成は達成できるものとする。以上提示した指導計画の構成要素は、今回の実践研究の事例の中で、検証してきた要素でもある。今後、それぞれの地域の課題を教材化する「追試」で、更なる深化を期待している。

川瀬雅之（市立札幌新川高等学校）

資料①

R3 1 学年「現代社会」 3 分間プレゼンテーション

課題 : 「30 年後の北海道」を予測し、各自の問題意識に従って「現実社会の諸課題の中からひとつ「課題」を選択し、皆さんが活躍する 30 年後にむけて、より良い北海道を築くために、未来を拓く「課題解決の具体策」を提言（プレゼンテーション）しよう！

テーマ: 30 年後の未来像

「() な北海道をめざして」

発表者: クラス () 出席番号 ()

氏名 ()

- 1) 選択した「課題」: 「課題」の概要が伝わるように簡潔に説明
- 2) その「課題」を選んだ理由: 自分自身の興味関心、「問題意識」を明確に示す
- 3) 「課題」に関連する現状: 現在の状態や状況から取組の必要性を、資料等をあげながら簡潔に説明
- 4) 「課題」が解決したと考えられる状態: 課題解決の取組がめざす「到達目標」を、具体的に示す
- 5) 「課題解決」に向けた方策: 課題解決の取組について、具体的に、その内容がわかるように説明
- 6) 「プレゼンテーション」を通じて伝えたいこと: 特に強調したい、自分の思いや願いなどを示す

資料②

(1) 生徒から発表者への「コメント」用紙 (A5版の用紙として印刷し配布)

「3分間プレゼンテーションを視聴して」

視聴者：氏名 ()

| | |
|--|-----------------|
| テーマ： 「() な北海道をめざして」 | |
| 発表者： | 発表日： 月 日 () 校時 |
| 「テーマ」、「課題」について：「テーマ」と発表内容の関連性、「課題」の選択・設定理由や取組の動機について | |
| プレゼンテーションの組み立て（構成）について：スライドの出来や発表時の使い方、説明の手順などについて | |
| プレゼンテーション全体を通しての感想：発表者への「激励」も込めて、発表の内容全般についての感想 | |

※以下のワークシートは、項目のみ掲載し、枠組みは省略する

(2) 授業者に提出させた、発表の全体を通しての「コメント」(感想や考えたこと)用紙

- ・ 今日、印象に残った「テーマ」や「課題」について : どのような点か具体的に
- ・ 今日、印象に残ったプレゼンテーションの組み立て（構成）について
: 解決すべき課題とその方策についての伝え方、プレゼンの仕方、理解と納得の程度
- ・ 今日のプレゼンテーションを通しての感想
: 気づいたこと、感じたこと、考えたこと など

(3) 「発表用のスライドの構想・レイアウト」を事前に作成させるためのワークシート
以下の項目ごとに、枠を印刷し、その枠内にイラストや文字情報などを自由に記入

発表用スライドの構想・レイアウト

1) 導入

「テーマ」、選択した「課題」の概要、選択の理由、取組の動機や背景、裏付けなど

2) 展開

「課題」についてその解決の重要性・必要性、課題解決に向けた「方策」の具体など

3) まとめ

「方策」のまとめ、課題解決に向けた理解と協力の呼びかけ、関連する提言など